

令和4年度 調布市立上ノ原小学校 学校評価報告書 (学校長 箱崎 高之)

学校の教育目標		
◎よく考え 進んで学習する子ども    ○思いやりをもち 仲良くする子ども    ○健康で 明るく元気な子ども		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
目指す学校像 【ごきげんな学校】 (1) 児童にとって 「よろこびのある毎日が送れる学校」 ・友達と関わることでできるよろこび    ・学んで分かるよろこび    ・心を解放して体を動かすよろこび ・自分の存在が認められるよろこび    ・自分の成長が実感できるよろこび    ・自分の将来に希望がもてるよろこび (2) 保護者, 地域にとって 「安心して任せられる私たちの学校」 ・開かれた学校→教育活動の積極的な発信    ・安心できる学校→素早く, 丁寧で誠実な対応    ・私たちの学校→協力, 協働の取組 (学校HP, 学年だより, 来校機会確保)    (子供の成長を願って共に悩み, 喜ぶ)    (地域学校協働本部 学校を核とした地域づくり) (3) 教職員にとって「ごきげんな職場」 ・風通しのよい明るい職場    ・やりたいことができる職場    ・成長できる職場 (まずは挨拶, コミュニケーションをしっかりと)    (できない, やらない理由を作らずにチャレンジ)    (学び, 成長する機会の確保 職に誇りと責任を)		

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>						
	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①主体的に考え, 議論する道徳授業の実践, いじめについて考える授業を全学級で各学期1回, 年間で3回行う。	B	①週ごとの指導計画を作成, 提出, 計画的に指導を行う。毎時間の授業においてねらい明示し, 振り返りを行う。	B	①「上ノ原小スタンダード」を基に, 基本的な生活習慣や規範意識を培い, 規律ある学校生活を確立する。	B
	②心の居場所づくりに努めるために, 児童や保護者の声にしっかり耳を傾け, 素早く丁寧で誠実な対応をする。	B	②「主体的な学び」「深い学び」を実現する授業を目指し, 「対話」の視点で授業改善を進める。	A	②ルールへの遵守, 挨拶, 正しい言葉遣いについて全教職員による一貫した指導を行う。	B
	③集団の一員としての自覚を深め, よりよい学校生活を築こうとする態度を育む。	B	③発達の段階や実態に応じて教科交換授業により専門性の高い授業を行う。	B	③ねらいを明確にし, 運動量を確保した体育授業。外遊び, 運動の日常化	B
自己評価	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価
	①国・質問紙「いじめ, どんな理由があってもいけない」95%以上→82%。	C	①市・魅力ある学校調査「授業がよく分かる」60%以上→51%, 職員評価「授業改善1」評価4・50%以上→45.7%	B	①職員評価「学習規律の定着と向上」評価4・65%以上→66.7%	B
	②市・魅力ある学校調査「学校が楽しい」60%以上→54.7%。	C	②市・魅力ある学校調査「主体的に取り組む」45%以上→46.3%, 職員評価「授業改善2」評価4・30%以上→43.2%	A	②職員評価「健全な心の育成」評価4・65%以上→62.2%	B
学校関係者評価	③市・魅力ある学校調査「みんなで何かをするのは楽しい」70%以上→70%	B	③国・学力調査・国語 70%以上→73%・算数 75%以上→71%, 職員評価「交換授業」評価4・90%以上→74.3%	B	③都・体力調査「ほとんど毎日運動」50%以上→40.6%, 「体力合計点」東京都平均以上→達成率 75%	C
	・保護者アンケート「子供たちが安心して生活」A評価 50.5%, 「相談に誠実に応じている」A評価 45.1% ・登校支援教室を開設できたことがよかった。		・保護者アンケート「学校は, 分かりやすい授業を進めている」A評価 47.7% ・ICT を効果的に活用し, 対話的な学びが浸透しており学力向上が期待できる。		・保護者アンケート「学習規律」A評価 47.7%, 「挨拶, 言葉づかい」A評価 31.1%, 「体力の向上に努めている」A評価 39% ・体育の授業に楽しく取り組めていて良い。	

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>					
	4 保護者・地域との連携	5 美しい環境の学校づくり			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	
	①HPを年間100回更新 学校便り, 学年便り月1回発行	A	①靴箱の靴をそろえることや清掃の指導を継続して行う。	B	
	②地域学校協働本部を生かして地域の教育力を活用する。	B	②掲示板設置, 内壁塗装等の校内環境整備を計画的に行う。	B	
	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価	
学校関係者評価	①保護者の相談に誠実に対応する。評価4・65%→64.9%	B	①靴がそろっている学級, 清掃が行き届いた学級 50%以上→50%	B	
	②保護者アンケート「協力した教育活動」A評価 50%以上→45.1%	B	②新規掲示板12か所設置, 内壁塗装未実施	B	
	・写真を見て学校で様々な取り組みをしていることを理解できた。 ・保護者アンケート「学校だより, HP」A評価 60%以上→45.1%。		・靴箱がきれいに整っていて気持ちが良い。 ・保護者アンケート「環境改善がみられる」A評価 60%以上→42%		

人材育成・組織運営	
自己評価	○授業力の向上 ・毎月のOJTを実施することができた。 ○校務分掌等の活性化 ・主幹教諭を核とした組織運営を推進することができた。 ○勤務規律の徹底 ・定期的な研修とサービスニュースレターを活用した校長講話により, 教育公務員としての自覚と人権意識を高めた。 ○ワーク・ライフバランスの推進 ・校務支援システムを最大限活用し業務を効率化させることで, 週当たりの在校時間を60時間以内とする。
学校関係者評価	・先生が工夫して授業をされていることが伝わってきている。 ・地域の方々との協力し, 教員の負担を削減できるとよい。

中期的な経営目標の達成状況	
1	人と人との良い関係を築く力の育成については, 新型コロナウイルス禍での影響が強く残っているため, 児童同士の関わりを増やすことが課題である。
2	自ら課題を発見し, 解決していく力の育成については, まだ十分達成しているとはいえず, 児童の主体性を育むことが課題である。
3	自ら心と体をきたえ, 命を大切にできる力の育成については, 体力テストの数値は改善傾向だが, 運動の日常化という点において課題が残る。
4	学校・家庭・地域が共に子どもの育ちを支えていく関係を発展させることについては, コミュニティ・スクールの取組を通して推進していく。
5	美しい環境の学校づくりについては, 靴箱の整理ができるようになった。今後計画的に内壁塗装工事を進めていく。
人・組・ライフ・ワークバランスの推進について, 学年担任制を推進することで改善をすることができた。	

次年度の重点課題		
○挨拶を核とした基本的な生活習慣の定着	○主体的, 対話的で深い学びを実現する授業改善の推進	○コミュニティ・スクールモデル校としての取組